

船の科学館叢書 1

重要文化財阿波藩御召鯨船 千山丸

千山御船

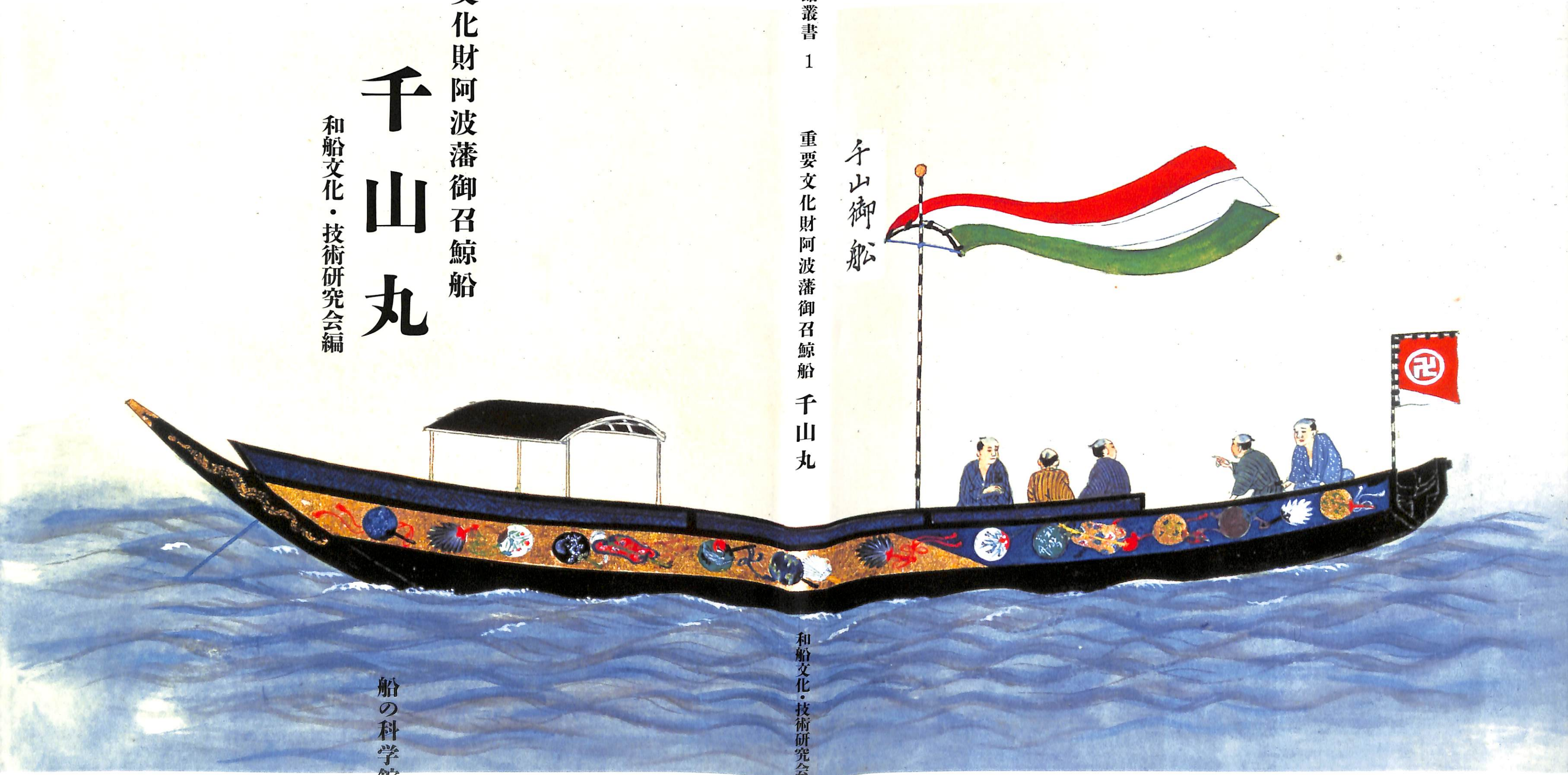
和船文化・技術研究会編 船の科学館

重要文化財阿波藩御召鯨船

千山丸

和船文化・技術研究会編

船の科学館叢書 1



目次

| | |
|------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 第一章 船体の概要 | 3 |
| 一 用語の解説 | 3 |
| 二 図面作成の要領 | 7 |
| 三 船体・船型の特徴 | 8 |
| 四 船体各部の仕様 | 11 |
| 五 加飾 | 44 |
| 第二章 資料が語る千山丸 | 51 |
| 一 蘇える千山丸 | 51 |
| 二 文献に見る千山丸 | 53 |
| 三 絵画に描かれた千山丸 | 57 |
| 第三章 博物館に入るまでの経緯 ―なぜ千山丸は残ったか― | 62 |
| 一 入館前の千山丸 | 62 |
| 二 千山丸の修復 | 67 |
| 三 意義と今後の課題 | 71 |



図3 徳島城中央公園の片隅で保管された千山丸

多すぎることはなからう。にもかかわらず、残念ながら一艘も残っていない。したがって、千山丸が現存する江戸時代唯一の実船といつてよい。

幕府や大名の保有する船には人目をひく装飾が施されている。船は船主の威勢のパロメーターであったばかりでなく、武威を発散させるために綺羅を飾るのが武家の船の常であったからである。千山丸は大名の船としては小船の部類に属すが、建造後一世紀半を経てだいぶ痛みが進んだものの、大名の船の豪華さを余すところなく今に伝えている。

江戸時代の和船の資料として木割書・造船関係文書・図面・雛形(模型)・船絵馬などが少なからず今に伝えられている。けれども、船釘をどのように打ったとか、部材をどう組み合わせたかなど船を造る技術を具体的に記したり、描いたりした資料はさして多くない。造船技術は、船大工にとっては自明のことであったばかりでなく、好事家の興味をさしてかき立てることもなかったからである。とはいえ数少ない資料を集めて、つきあわせた結果、伝統技術といえども時代により変わるので、全貌とはいえないまでも、江戸時代の造船技術のおおよそは明らかになっている。千山丸の建造技術も従来得られた知見の域を出るものではないが、安政四年九月時点での和船の技術を目の当たりにできることがいかに貴重かは改めて論じるまでもない。

昭和十八年(一九四三)に蜂須賀家から徳島市に寄贈された千山丸は、以来、徳島中央公園の片隅で保管されてき

た(図3)。ところが、徳島市が徳島城博物館の設立を企図したことにより千山丸にもようやく転機が訪れる。平成三年(一九九一)十二月からほぼ一年をかけてクリーニングや剥落止めなどの補修を加えられた後、千山丸は翌年十月一日から徳島城博物館で展示され、同五年五月二十四日に徳島市指定文化財、ついで同八年六月二十七日には国の重要文化財(歴史資料)に指定された。寺社に奉納された船の雛形などが重要民俗資料に指定された例を別にすれば、歴史資料として重要文化財に指定された日本の船は千山丸が最初である。

もし重要文化財指定後に国庫補助を受けて補修を行っていたなら、事業の一環として詳細な修理報告書が作成され、千山丸の全貌が明らかになったことは容易に想像がつこう。しかし、指定前の徳島市による補修であったために修理報告書は作成されずに終わり、以来、千山丸の重要性は認識されながらも、諸般の事情により調査報告書の作成には手がつけられなかった。

そこで、日本財団が我が国の木造船文化や技術を社会遺産として後世に残すための方策を検討して具体化するために設置した和船文化・技術研究会が中心となって、船の科学館への委託事業として調査を行い、報告書を作成することになった。調査結果のみならず関連資料を網羅して、千山丸のすべてが分るエンサイクロペディアを目指して本報告書は作成されているので、今後の和船研究に活用していただければ幸いである。

第一章 船体の概要

一 用語の解説

千山丸の船体を一言でいえば棚板造りである。棚板造りとは、船底材の前後に船首材と船尾板を組み合わせ、両舷に棚板を重ね継ぎし、内側に多数の船梁を入れて補強した船体構造をいう。棚板構成は加敷・上棚の二階造りと加敷・中棚・上棚の三階造りが基本で、千山丸は前者である。

船体各部の名称は一般になじみがうすいので、船体の調査結果を述べるに当たって、まず千山丸に即して名称の説明を簡単に行っておこう。なお、千山丸のような軍船と千石船と俗称される舟才船のような商船では用語が多少異なることを予めお断りしておく(図4)。

航 平らな船底材で、敷とも呼ばれる。航は舳航と艫航よりなり、舳航の先端に水押(船首材)、艫航の後端に戸立(船尾板)を組み合わせて、船体の基本構造とする。通例、艫航の長さは、商船で航長さの四分の一、軍船で航長さの三分の一である。艫航の後端を反り上げるが、反りの大きさは艫航下面後端の舳航下面からの高さで表し、これを艫航の持という。水押と舳航の付留を請口(受口)、舳航と艫航の付留を折腰、舳航と戸立の付留を桶尻

と称する。航にかかわる長さはすべて内法寸法で、舳航の長さとは請口から折腰までの長さ、艫航の長さとは折腰から桶尻までの長さのことである。

水押 舳航の先端に組み合わせた船首材で、子止(荷吉・女首・女子)とも呼ばれる。水押には加敷と上棚を取り付ける。上棚より突き出した部分を野木もしくは茂木、航から上棚の付留までの部分を前口といい、水押の前部を潮切と呼ぶ。水押の傾きは、開きで示す。これは、垂直線となす角を一尺に対する長さ(何寸何分)で表したもので、角度の正弦(五三)の真数と同じである。

戸立 艫航の後端に組み合わせた広い船尾板で、戸建とも書く。戸立には棚板を取り付けるが、加敷を付ける下部を下戸立(根戸立)、上棚を付ける上部を上戸立という。戸立の肩とは上戸立の上幅のことで、戸立の傾きは開きで示す。

加敷 航の両側に取り付ける棚板で、根棚とも称される。前部を水押、後部を戸立にとめる。加敷の傾きは開きで示す。

上棚 加敷の両側に取り付ける棚板で、前部を水押、後部を戸立にとめる。上棚の傾きは開きで示す。

淡落 棚板の下側の通りをいい、泥障とも書く。
外艫 戸立より後方に延びた上棚・加敷廻りをいう。